

Ⅱ特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第94回

宮崎大学の活動報告



井上果子
(宮崎大学地域資源
創成学部講師)

双方向型日越大学間さくらロ
ータス国際プログラムの実施

—先進的な農業をベトナム国家農業大学の
学生らが学ぶ—

①プログラムの概要

平成29年2月15日～2月24日に、宮崎大学はさくらサイエンスプランの支援を受け、ベトナム国家農業大学の農学部アドバンスプログラムおよび農業経済農村振興学部アドバンスプログラムの大学生10名、研究員1名の合計11名を招聘しました。

本プログラムでは、農業分野における最先端技術を駆使した農場管理フィールド、試験場等やそれらを取り入れた日本式農業の国際展開を視野にいれた経営を行っている農業法人、農業従事者や関連施設を訪問し、宮崎大学および宮崎県内の学生・研究者・農業関係者との交流を深めました。日本のICT技術等を駆使した新しい農業システムを導入している農業法人や技術革新を図りつつ農業の6次産業化を世界規模で展開する企業を訪問した他、持続可能な農業や農業の多面的機能を活かした農業を知るべく世界農業遺産に認定された高千穂郷・椎葉山地域を訪問するなど、地域の人々から積極的に学ぶ機会ももちました。さらに、日本文化を知ることができる茶道と着付け体験や農家民泊体験なども行いました。

②プログラム参加者

招聘した学生は、ベトナム国家農業大学において英語で教育を受けている優等プログラムの学生です。宮崎大学の大学生が2016年夏に、ベトナム国家農業大学で共同研究・学習を行う機会があり、彼らは、その共同研究・学習に参加したベトナムの大学生の中から選抜された成績優秀者です。さくらサイエンスプランによって、双方向による教育・研究プログラムが可能となり、ベトナム国家農業大学との交流をさらに進化させることがで

プログラム	
1-2日目	到着、日本科学未来館訪問(東京)、宮崎市へ移動
3日目	オリエンテーション、日越学生合同キックオフ・ワークショップ、歓迎会
4日目	世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域見学、農泊
5日目	
6日目	農業ICT技術関連研修(農業法人訪問)
7日目	海外展開農業法人訪問
8日目	宮崎大学実験農場訪問、農業経済講座
9日目	さくらロータス国際セミナー開催(日越学生等による英語での成果発表)、修了式、壮行会
10日目	帰国

エンズプランでは、その逆で、日越双方の学生が宮崎県のフィールドを訪問し、ベトナムの大学生と再会した宮崎大学の学生がベトナムの学生のために宮崎で展開している最先端の農業技術や日本文化を英語で説明、通訳を行うなどの役割を担いました。さらに、学生間交流の進化のみならず、例えば世界農業遺産に認定された高千穂郷・椎葉山地域を訪問した際は、両国の学生が一緒に農泊し、地域の人々と心温まる交流があるなど、大学間の学生交流、地域の農家や農業法人との交流など大学間のみならず地域社会にも交流の輪が広がりました。

③プログラムの成果

全国的にも注目されている宮崎県内の農業法人を訪問し、宮崎大学の圃場訪問や農業経済・農村開発に関する講座での学習を日越の学生がともに学ぶ中で、ベトナム研修生からは「ここは未来の国だ。我々はまさに未来にやってきました」と目を丸くして感嘆する声があがっていました。労働集約型の農業が主流と

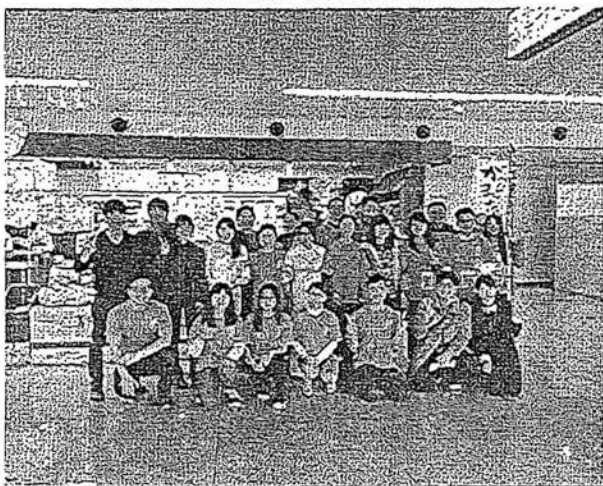
きました。ベトナムを宮崎大学の大学生が訪問した際は、ベトナムの農業や農村について日越双方の大学生がともにフィールドを訪問し、ワークショップを行い、ベトナムの大学生が宮崎大学の学生とともに学ぶ際に、英語通訳の役割を担い、宮崎大学の学生にベトナムの農業事情やベトナム文化について説明してくれました。今回のさくらサイエ



高千穂・椎葉山GIAHS (世界遺産) 地域の視察・農業民泊を体験



招聘したベトナム国家農業大学の学生および宮崎大学関係者の集合写真



ベトナム国家農大・宮崎大学で研究・学習交流をした学生たち(宮崎空港見送り)



海外向けの農作物貯蔵施設等を訪問

なっているベトナムとの比較において、研修では、農業技術から経営戦略まで、先進的な状況を目の当たりにしたベトナムの大学生は、本学の大学院に進学して日本の最先端農業技術を学びたい等との声があがっていました。中には、農業法人を訪問した際に、留学後には日本の農業法人で働きたいと目標を立てるベトナム研修生もいたほどです。

ベトナム国家農業大学で2016年夏に学んだ宮崎大学の大学生と今回招聘したベトナム国家農業大学の学生の交流もさらに深まり、帰国時に宮崎空港で両大学の学生たちの別れを惜しむ姿が印象に残りました。現在も日越双方の大学生はFacebookで日常的に交流を継続しているようです。今後も大学生間の交流が続くことが期待されます。

④今後の展望

ベトナム国家農業大学と宮崎大学の農業や農村振興上の教育・研究・地域社会貢献上の交流は、今後も継続していく予定で、2017年度も8～9月に宮崎大学の学生がベトナム国家農業大学に訪問し、ベトナムでの日越

学生合同でのフィールドワークを行う予定です。さらさらサイエンスプランを終えて帰国したベトナムの研修生が、日本での経験や成果をベトナム国内で広く共有してくれたおかげで、今年度も優秀なベトナムの大学生が参加してさらなる双方向型日越大学間交流が展開する見込みです。日越双方のさらさら・ロータスOB/OGネットワークを通じ、グローバルに活躍する日越学生のプラットフォームとしても展開していくことを期待しています。

宮崎大学は、「世界を視野に地域からはじめよう」というスローガンのもと、「異分野融合を軸に「地の利、人の利」を活かした教育研究等の推進」や「地域と共に興す「新たな光る宮崎ブランド」の確立と発信」を目標としています。今回のさらさらサイエンスプランは、まさにその目標達成に向けた、教育、研究、地域社会貢献上、大変意義深い成果を得ることができました。このような機会をいただけたことに心より感謝しつつ、今後もさらさらサイエンスプランが継続されることを願っております。